

仕様

	KJP4
フレーム材質	アルミ
シート材質	ポリエステル
アームサポート	ウレタン
サイドガード	樹脂
グリップ	エンボスグリップ
バックサポート	テンション
背折れ	なし
フット・レッグサポートタイプ	開き式(スイングアウト)
フットサポート	KJP用スライドフットサポート
キャスト	8" (黒)ソフトフォーミングキャスト アルミフォーク
駆動輪	24 インチ
タイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	あり ドラムブレーキ
ハンドリム	プラスチックハンドリム
駐車用ブレーキ	KTブレーキ 立体中

単位：mm

	KJP4
全長	1090
全幅	680
全高	H:960/985/1010 L:935/960/985 ※4
シート幅	450
前座高	H:555(495) L:530(470)※3
後座高	H:530(470) L:505(445) ※3
シート奥行き	400
バックサポート高	370/395/420(430/455/480) ※3
駆動輪	24 インチ
キャスト	8 インチ
アームサポート高	180/200/220/240/260/280(240/260/280/300/320/340) ※3
フットパイプ長	430±25
折りたたみ時の全幅	380※2
折りたたみ時の全長	810(1070)
折りたたみ時の全高	H:960/985/1010 L:935/960/985 ※4
重量	20.2kg

※1 ()内はフット・レッグサポートを取り付けたままのサイズです。

※2 背アウターシート・座クッション取り外し時のサイズです。

※3 ()内は座クッション取り外し時のサイズです。

※4 手押しハンドル高の変更によって変わります。

製造元

Wheel Chair
Miki

株式会社 ミキ

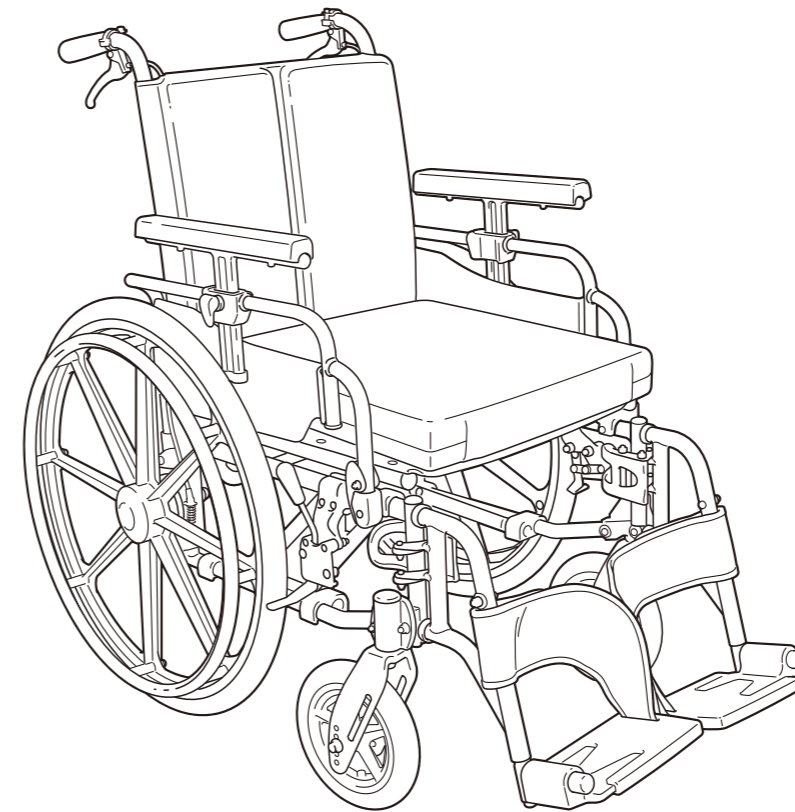
〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

2008-004KJ4

KJP-4

取扱説明書



目次

はじめにご確認ください 2
使用目的・特徴 2

安全上のご注意 2

各部のなまえ 5

使いかた 6

ブレーキのかけかた 6

車いすの開きかた / たたみかた 7

シートの取り付け・取り外し 8

乗り降りのしかた 9

フット・レッグサポートの

開閉・取り外し 10

アームサポートの跳ね上げ 10

各部の調節のしかた 11

座面の高さ調節 11

バックサポートの張り具合調節 13

フットサポートの高さ調節 13

アームサポートの高さ調節 14

手押しハンドルの高さ調節 14

使用上のご注意 15

保守・点検 15

走行上のご注意 16

段の上がりかた 16

困った時には 17

アフターサービス 19

保証 19

仕様 裏表紙

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときの、下記のものすべてが入っていることを確認してください。
 ・車いす本体 *1台 ・背アウターシート *1枚 ・座クッション *1枚 ・レッグサポート *左右各1
 ・工具(スパナ 2枚 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1枚) ・取扱説明書(本書) ・保証書

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。
 ・P7 車いすの開きかた ・P8 シートの取り付けかた

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

	危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
	警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。		禁止の行為であることを告げるものです。
	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。		

危険

スピードを出さないでください。
 スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。

急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下ってください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。

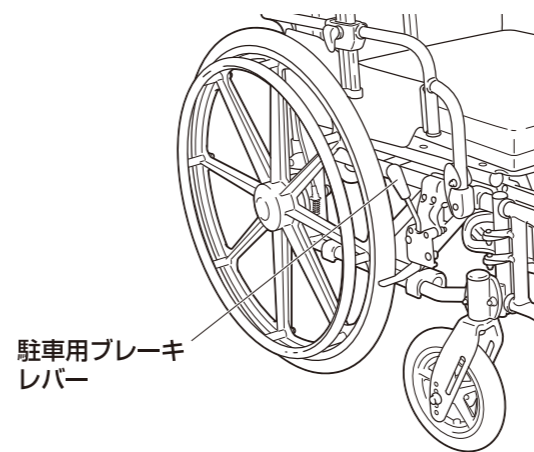
駆動輪とキャストは、同じ仕様の部品を使用し、それぞれ座面の高さに対応する位置に取り付けてください。
 駆動輪とキャストの取り付け高さを誤ると、腰掛けた場合に転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

エスカレーター(車いす対応エスカレーター除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。
 転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

警告

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
 駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
 ブレーキがかかっていると車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
 レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

制動用ブレーキは、介助者が制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。
 転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポート、アームサポート、アームサポートフレームを持って車いすを持ち上げないでください。
 アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
 製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

座面の高さの調節は、販売店へご依頼ください。

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
 坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

タイヤの磨耗に注意してください。
 タイヤが磨耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
 車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートフレームを跳ね上げた状態で走行しないでください。
 使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートフレームを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。
 使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
 事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。
 事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
 けがをする恐れがあります。

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを入れたり、吊り下げたりしないでください。
 過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。
 十分注意してご利用ください。

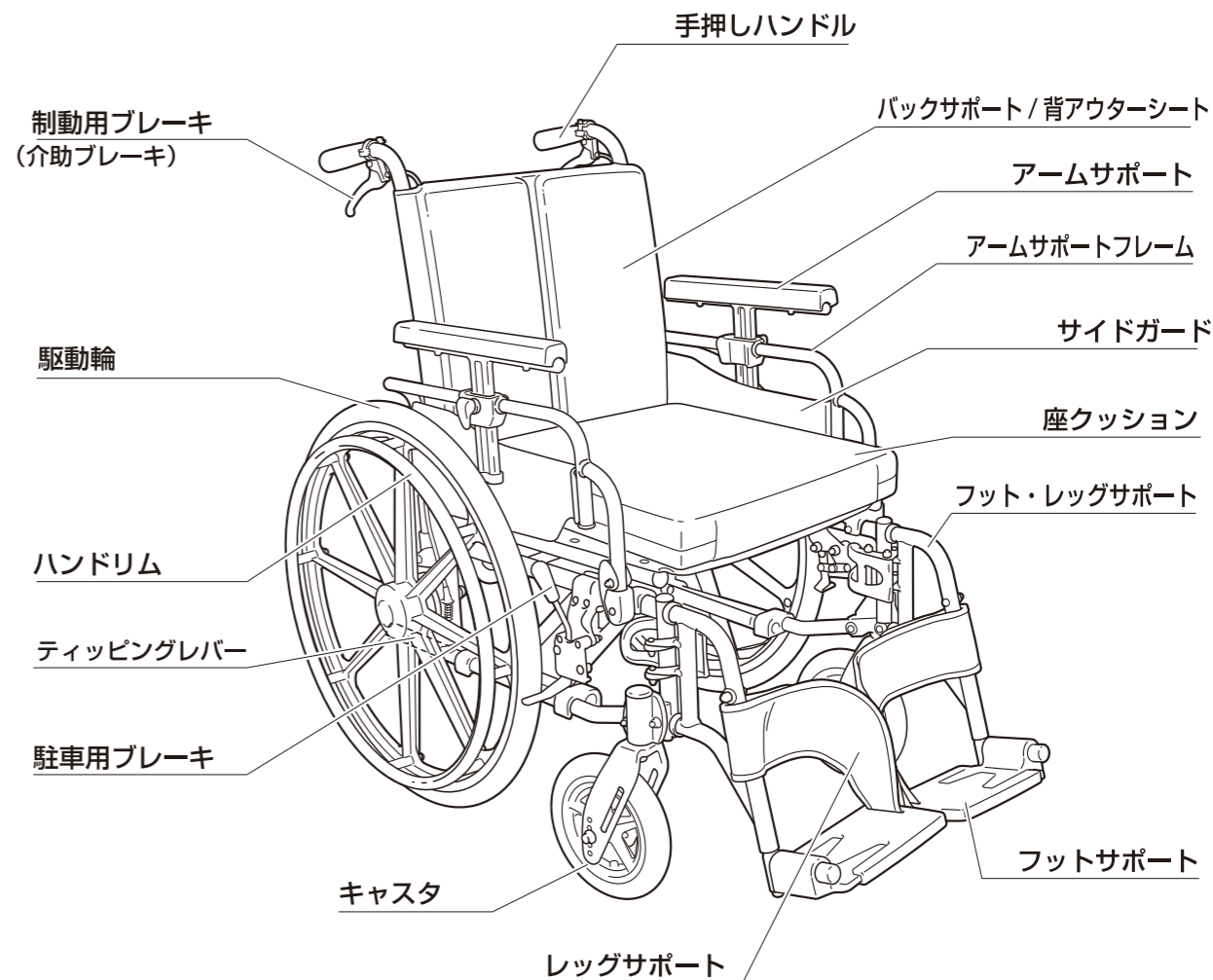
⚠️ 注意

- ⊘ この車いすは1人用です。2人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 最大体重（積載物含む）は130kgになります。体重制限を守って使用してください。
- ⊘ 車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。手をはさみ危険です。
- ❗ 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
- ⊘ 走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
- ❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。けがをする恐れがあります。
- ⊘ フットサポートの下には足を入れないでください。足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- ❗ アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
- ❗ バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。
- ⊘ 折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさみ危険です。
- ❗ 使用する前に駆動輪・キャスト・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❗ アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。
- ❗ フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- ⊘ 暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。
- ❗ 段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。車いすの破損や故障の原因となります。
- ❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。
- ⊘ シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。



各部のなまえ

下図は標準仕様です。仕様によっては、装備や形状が異なります。

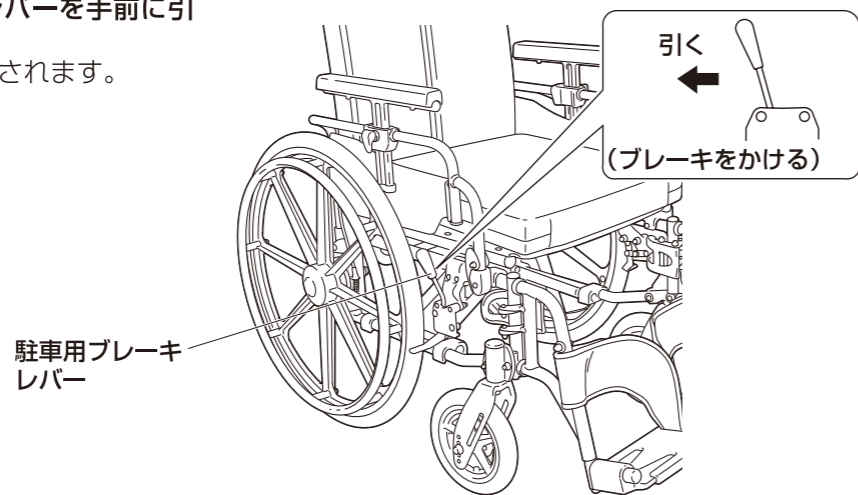


ブレーキのかけかた

● 駐車ブレーキのかけかた

<p>⚠警告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があります、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・タイヤの磨耗に注意してください。タイヤが磨耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
------------	---

使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

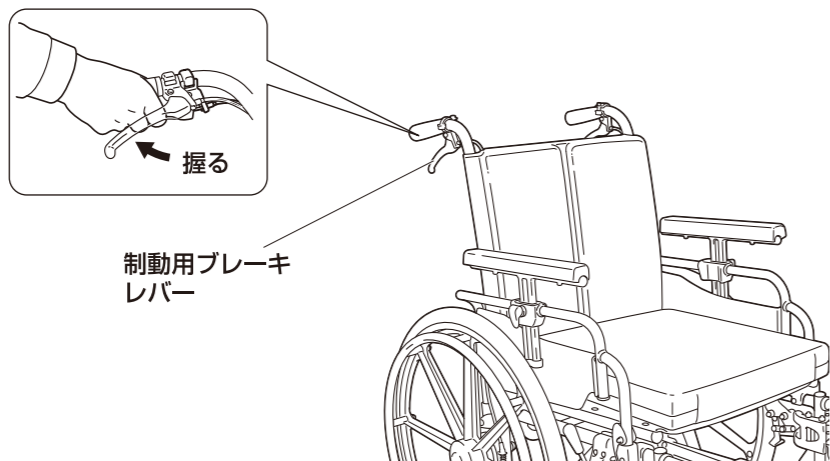


● 制動用ブレーキのかけかた

<p>⚠危険</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。
------------	--

<p>⚠警告</p>	<p>ブレーキは、介助者が制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。</p>
------------	--

介助者が、左右の手押しハンドル下側の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。制動用ブレーキレバーを放すと解除されます。

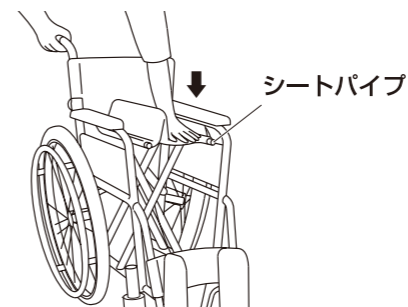


車いすの開きかた / たたみかた

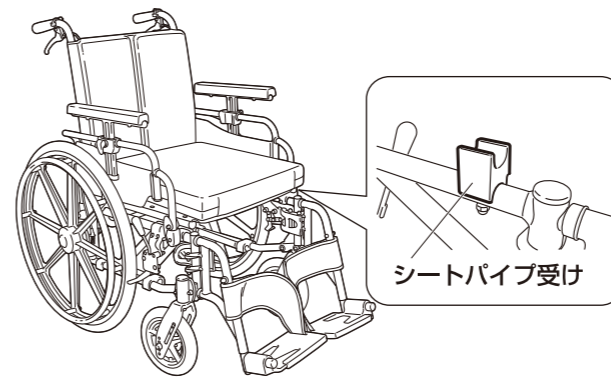
<p>⚠注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
------------	---

● 開きかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 シートパイプの両端を手の平で押し下げます。
*シートパイプを握らないでください。
*シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。



- 3 シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認します。
*しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押しはめてください。押し時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。

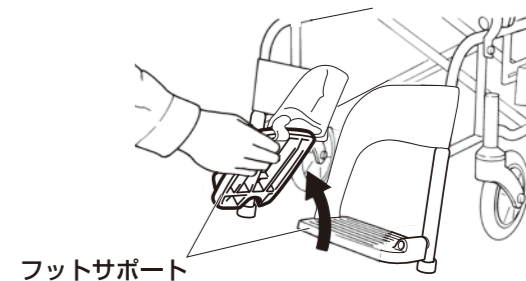


*シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

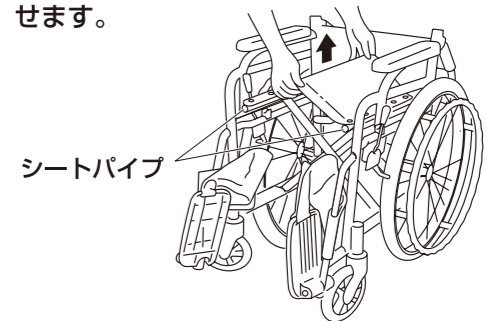
- 4 背アウターシートと座クッションを取り付けます。

● たたみかた

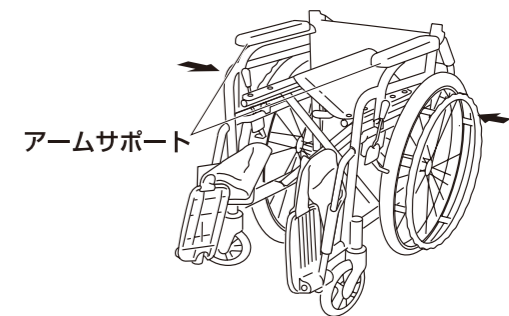
- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 背アウターシートと座クッションを取り外します。
- 3 フットサポートを両側とも上げます。



- 4 シートの前後を持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



- 5 アームサポートを両側から押し、座シートを折りたたみます。
*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



シートの取り付け・取り外し

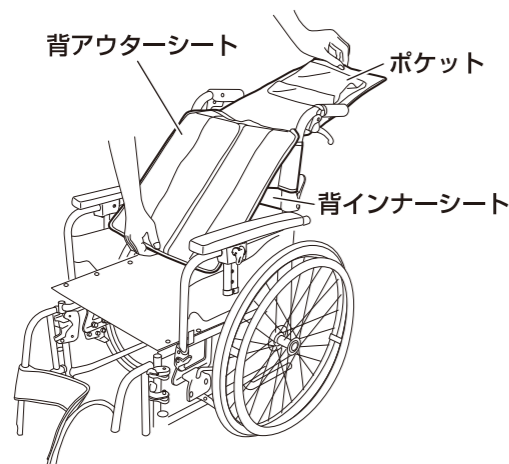
△注意

- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

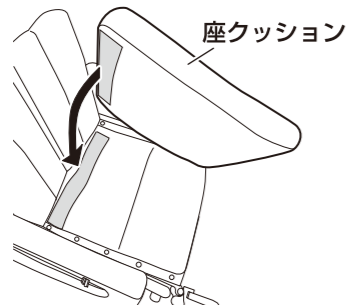
アウターシートについて

● 取り付けかた

- 1 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせ
ます。
背アウターシートと背インナーシートの面ファ
スナーを貼り合わせます。



- 2 座クッションの裏面に面ファスナーのある方を
後側にし、車いす本体の座インナーシート表面
の面ファスナーと貼り合わせます。



● 取り外しかた

*取り外しは、逆の手順になります。

レッグサポートについて

● 取り付けかた

- 1 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレ
ッグパイプに巻つけ、面ファスナーを貼り合わせ
ます。
- 2 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート
先端の前後どちらかの穴に差し込みます。



- 3 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面
ファスナーを貼り合わせます。
- 4 反対側も同様の作業を行います。

● 取り外しかた

*取り外しは、逆の手順になります。

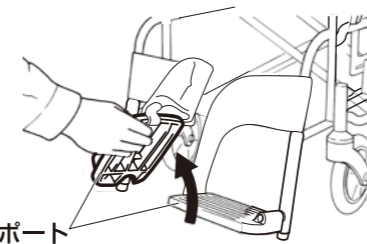
乗り降りのしかた

△警告

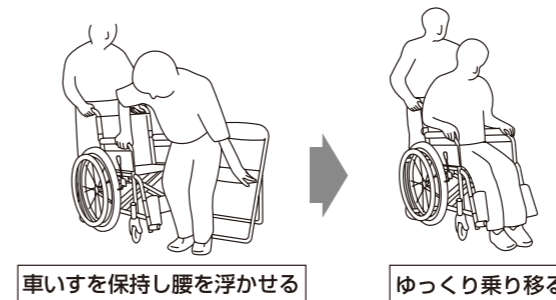
- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあり
ます。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレ
ーキをかけます。
- 2 フットサポートを両側とも上げます。
*フットサポートの上には乗らないでくださ
い。転倒し、けがをする恐れがあります。
*上げたフットサポートに足が当たらないよう
注意してください。けがをする恐れがありま
す。

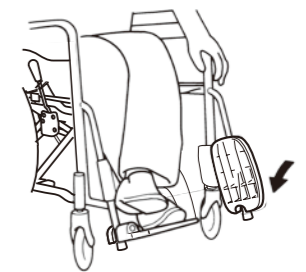


- 3 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・
取り外し」(P.10 参照)や、「アームサポートフレ
ームの跳ね上げ」(P.10 参照)を行います。
- 4 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗
り移ります。

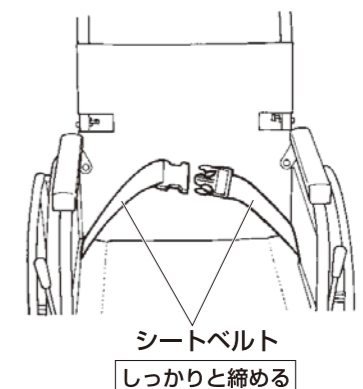


- 5 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」や、
「アームサポートの跳ね上げ」を行っていた場合
は、元に戻します。

- 6 フットサポートを下ろして両足を乗せます。



- 7 必要に応じてシートベルト(オプション)を締め
ます。
*体格に合わせてシートベルトを調整し、座った
姿勢をしっかりと安定させてください。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

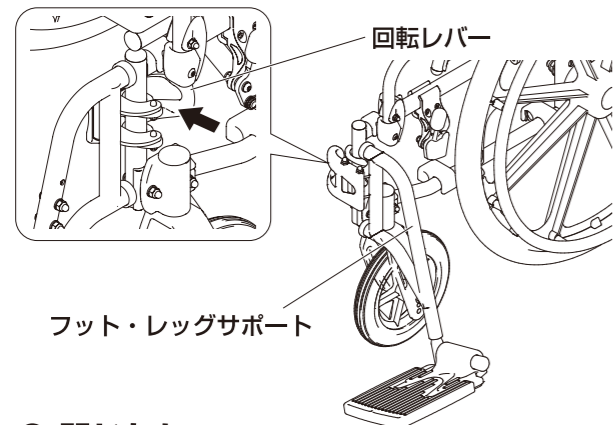
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

- ⚠警告
- フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
 - フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に押し、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

*フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 車体フレーム側の2つのフット・レッグサポート側の回転軸穴(2箇所)を合わせてはめ込みます。

2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

*フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

*フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

アームサポートフレームの跳ね上げ

アームサポートフレームをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。ベッド等と車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

- ⚠注意
- 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
 - アームサポートフレームを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。
 - アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

● 跳ね上げかた

ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。

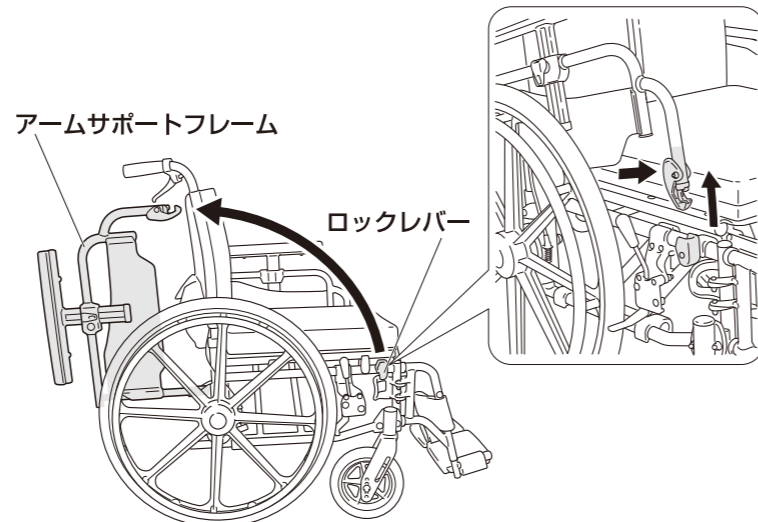
*アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

● 戻しかた

アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

*アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないよう注意してください。

*アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。



各部の調節のしかた

- ⚠警告
- 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。座面の高さ調節は、販売店へご依頼ください。

座面の高さ調節

- ⚠危険
- 駆動輪とキャストは、必ず対応する高さ設定に調節してください。
 - 駆動輪とキャストの調節を誤ると、腰掛けた場合に転倒する恐れがあります。
 - 使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。

座面の高さを2段階(低・高)[25mmピッチ]に調節することができます。

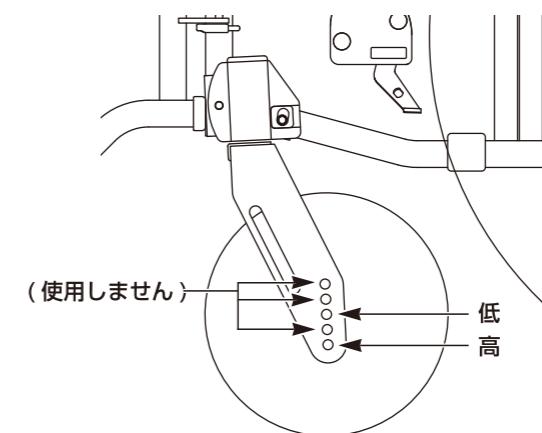
座面の高さ調節は、駆動輪とキャストの取り付け位置をそれぞれ対応する高さ(低、または高)に調節することで行います。

*駆動輪とキャストは、それぞれ左右同じ高さに調節してください。

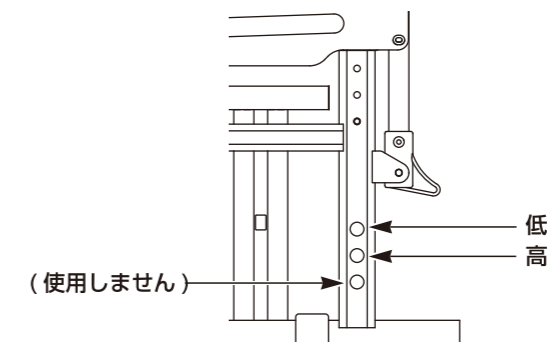
*座面の高さを変更したら、必ず駐車用ブレーキの取り付け位置もあわせて調節してください。

キャストと駆動輪の調節範囲

キャスト



駆動輪



駆動輪の高さを変える

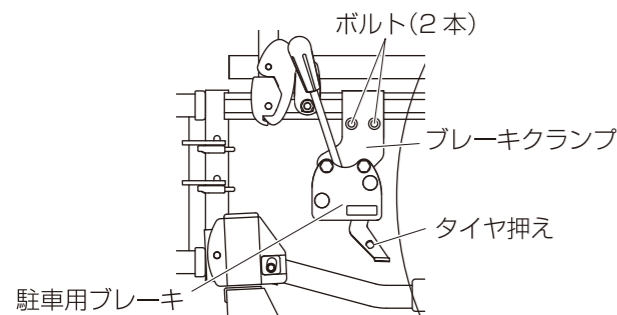
- 作業しない側の駐車用ブレーキのみかけます。
- 駆動輪の車軸内側のナットをスパナなどで回して外し、駆動輪を引き抜きます。
* 外側の車軸は、回さないでください。
* このとき、制動用ブレーキも一緒に取り外します。
- 駆動輪を取り付ける穴を決め、駆動輪の車軸を制動用ブレーキ等に通し、本体フレームに差し込みます。
- 車軸内側にナット等を取り付け、しっかりと締め込みます。
締め付けトルク：20.0～24.0N・m
- 駆動輪がガタつかず、しっかりと固定されていることを確認します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

駐車用ブレーキの取付位置を調節する

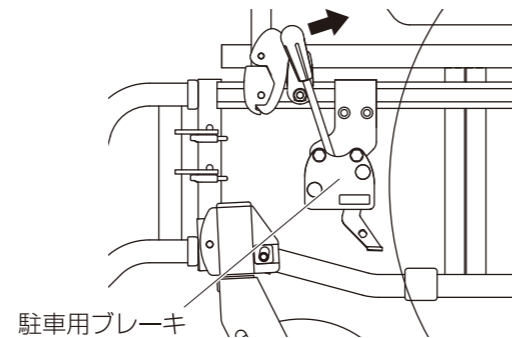
- * 座面の高さを調節すると、駆動輪と駐車用ブレーキ間の距離が変わります。必ず駐車用ブレーキの取付位置を調節してください。
- * ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

- 駐車用ブレーキのクランプを固定しているボルト(2本)をレンチなどでゆるめます。



- 駐車用ブレーキをクランプごと動かし、駐車用ブレーキの位置を調節します。
* 駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押えが当たり、駆動輪がしっかりと止まる位置に調節してください。
- ボルト(2本)を締め、駐車用ブレーキがガタつかずしっかりと固定されていることを確認します。
締め付けトルク：5.0～6.0N・m

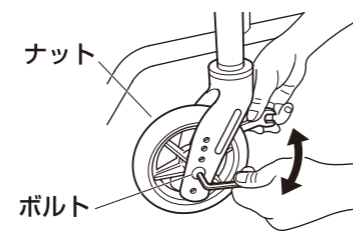
- 駐車用ブレーキをかけ、駆動輪がしっかりと止まることを確認します。



- * 駆動輪がしっかりと止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。
- * 反対側も同様に調節してください。

キャストの高さを変える

- 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- キャスト軸のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを抜きます。



- 前ページ「キャストと駆動輪の調節範囲」に従って、駆動輪と同じ高さ設定になる取付け穴にボルトを差し込み、しっかりとナットを締め込みます。
締め付けトルク：4.5～5.0N・m
- キャストがしっかりと固定されていることを確認します。また、キャストがスムーズに回転することを確認します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

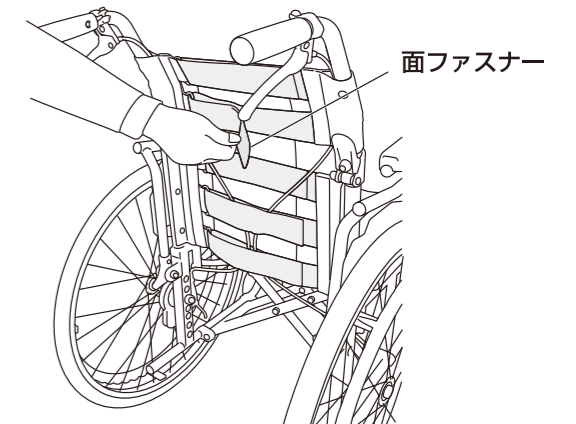
バックサポートの張り具合調節

⚠注意

- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

* 背シートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

- 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。
* 手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 背アウターシートを取り付けます。



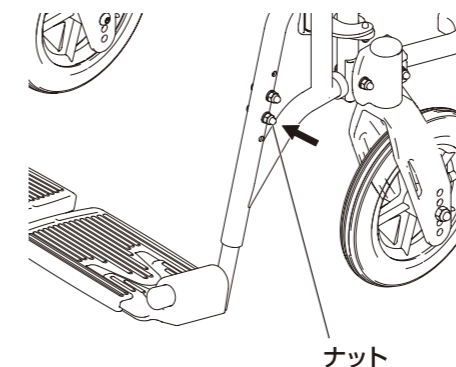
フットサポートの高さ調節

⚠注意

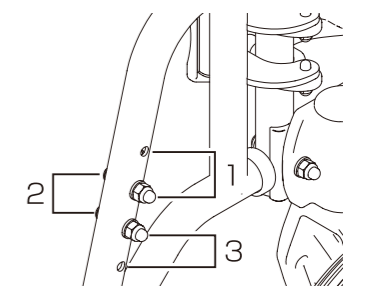
フットサポートは、地上より 50mm 以上あげた状態で使用してください。

フットサポートの高さを3段階(高・中・低)に調節することができます。使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

- 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 穴ボルト(2本)の頭をレンチで固定しながら、反対側のナット(2本)をスパナなどで回して外し、穴ボルトを取り外します。



- フットサポートを適切な高さに調節し、穴ボルトを通す穴を決めます。
* 穴の選び方は以下の3とおりです。



- 手順3で決めた穴に穴ボルトを通し、穴ボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットを締め付けて固定します。
- 反対側も同様に調節します。
* しっかりと固定されていることを確認してください。

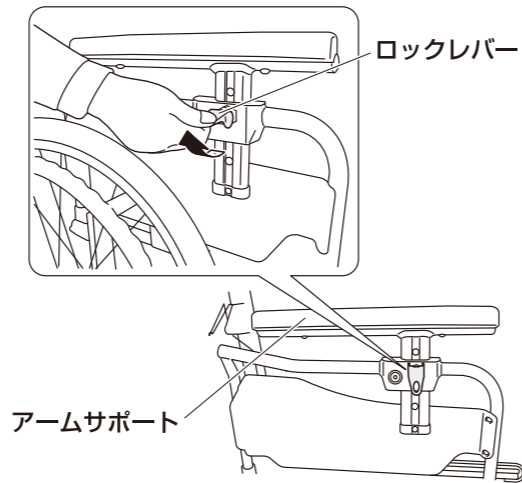
アームサポートの高さ調節

△注意

- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・調節中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないように注意してください。けがをする恐れがあります。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ロックレバーを引いてロックを解除します。
- 3 アームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーを押し下げます。
- 4 ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

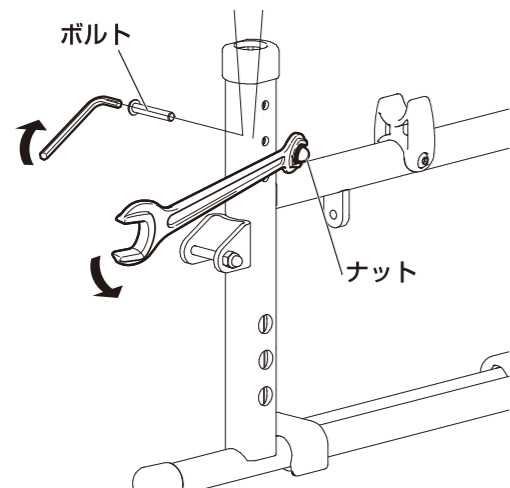
- * 反対側も同様に調節してください。
- * 調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。



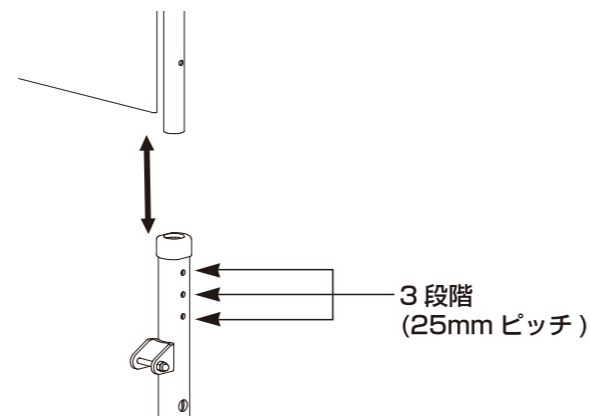
手押しハンドルの高さ調節

* 介助者の身長に合わせて、手押しハンドルの高さを3段階に調節することができます。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 背アウターシートを取り外します。
- 3 バックサポートパイプ内側のナットをスパナで外し、外側のボルトを六角レンチで取り外します。(左右とも取り外します。)



- 4 手押しハンドルの高さを調節し、希望の高さの穴にボルトをねじ込み、六角レンチで締め付けます。(左右とも締め付けます。)
* 手押しハンドルの高さは3段階(25mmピッチ)に調節することができます。



- 5 ナット、ワッシャー類を取り付けます。
- 6 反対側も同じ高さに調節してください。調節後、手押しハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。
- 7 背アウターシートを取り付けます。

使用上のご注意

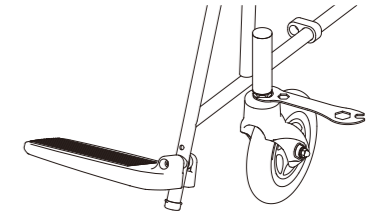
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

- ・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)
- ・車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光のあたる場所には放置しないでください。

△警告

キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪(主輪)・ブレーキ等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



消耗品、交換部品の確認

△注意

交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買上の販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどがみられる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

△注意

- ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水にぬれた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

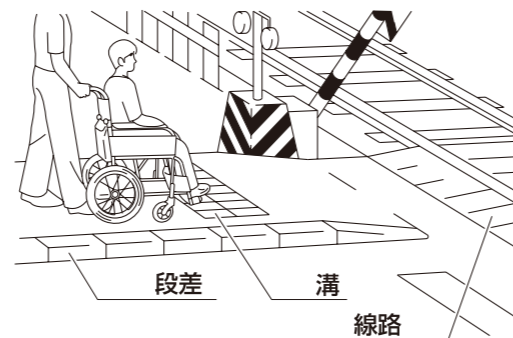
● 保管・収納について

- ・ 収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・ 錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光のあたる場所には保管しないでください。

△注意 折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

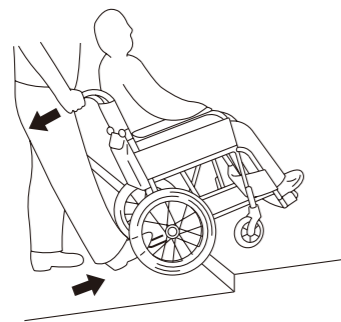
走行上のご注意

- ・ 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・ 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・ 溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- ・ 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・ 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・ クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- ・ エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- ・ 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

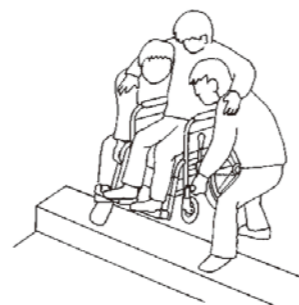


段の上がりかた

1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



2 駆動輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。



車いすに乗ったまま持ち上げる場合

△警告 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは 2 人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症状	確認点	対処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 <自走の場合> 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 <介助者が押す場合> 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駆動輪の計4輪がきちんと接地していますか。		
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かっていたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

症 状	確認点	対 処
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。

アフターサービス

- ・万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- ・保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。